

1 事業実施状況

(1) 概要

1) 分収育林事業

平成27年度から令和6年度までの10年間で、契約満了となった22箇所・62.72ha(622口、543人)の分収木を販売し、20万円を1口として出資いただいたオーナーの皆様在所定の分収金をお支払いしました。1口当たりの平均分収額は、ウッドショックにより木材価格が高騰したことなどから、前期10年間で約6万4千円上回る22万6千円となりました。



※ H27～R6 はカラマツ分収木の販売は該当無し

昭和61年度に穂別町（現むかわ町）で事業を開始して以来、公社では全道に60箇所の分収育林地を設置して、育林や販売事業に取り組んできたところであり、分収木の販売は令和8年度に予定している1箇所を残すのみとなりました。分収育林事業は、公社設立の契機となった事業であり、オーナーの皆様のご理解とご協力により支えられてきましたが、ウッドショック以降木材価格が再び低迷し、長期的な価格動向が依然として不透明であること、国や他府県に分収造林事業の状況などを踏まえ、令和8年度に分収木販売後は新たな分収育林地の設定は行わず、事業を終了する予定です。

公社としては、引き続き木材価格の動向を注視しながら、残り1箇所となった分収木の適期販売と分収額の確保に努めるとともに、より多くの方々に森林づくりの大切さを理解いただき、様々な形でご協力をいただく新たな事業展開を検討する考えです。

2) 森林林業普及啓発事業

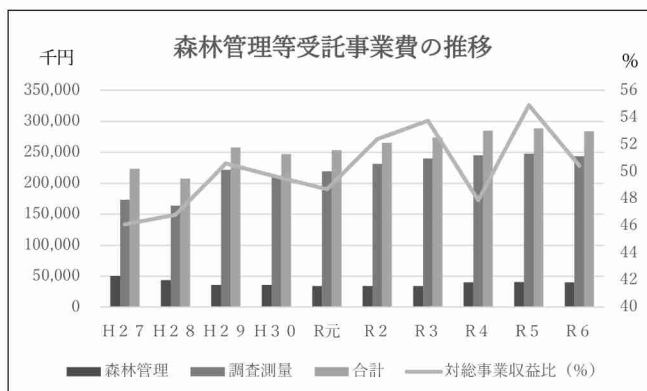
森林・林業に対する理解の醸成を図るため、道民の森において「親子でキャンプ入門」、「ステンドグラス体験 in 森の教室」、「ノルディックウォーキング in 道民の森」などの行事を実施しました。

また、道民の森に自生する植物を紹介する「道民の森花ガイド」を販売するとともに、普及誌「森林保護」を制作し、関係機関に無償で配布しました。

さらに、公社が所有する森林において主伐や植栽、下刈りを実施し、計画的な森林整備に努めています。

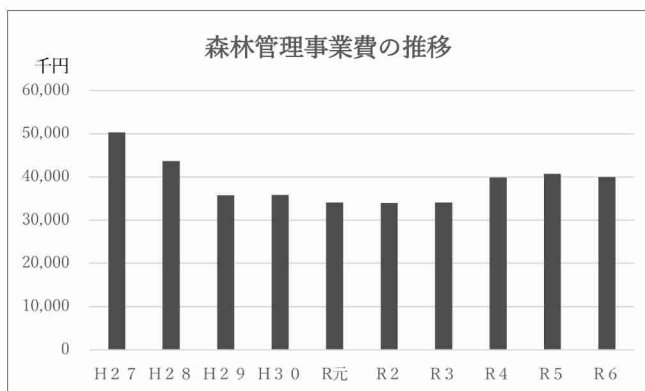
3) 森林管理等受託事業

各森林室からの要望や重点的に取り組む課題に対応するため、道の委託事業を次のとおり実施しました。令和6年度の森林管理等受託事業費は283,764千円で、平成27年度から27%増加しています、また総事業収益に対する比率は4.6%～5.5%とほぼ半数を占めています。



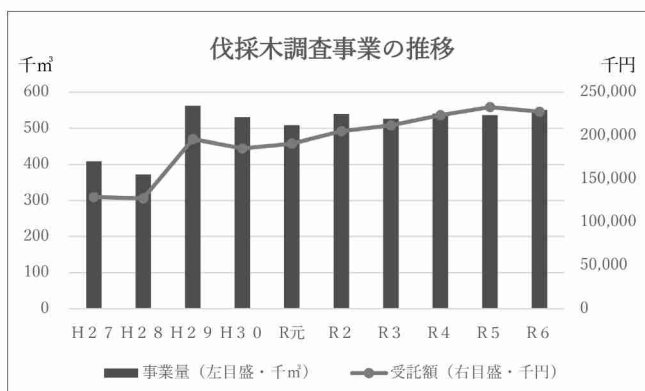
ア 森林管理

山火事防止の指導、高山植物不法採取の監視、林野被害の調査などの巡視業務や、入林ゲート、林道の管理業務、境界標の維持・補修業務などを行いました。平成27年度以降の事業実績は令和2年度まで人工数、事業費ともに前年から減少したものの、その後増加に転じ、令和4年度以降の事業費は40,000千円程度で推移しています。



イ 調査測量

伐採木の調査、天然林標準地調査、野ねすみ予察調査、人工林等調査測量を実施しました。特に伐採木調査は、公社の経営を支える主要事業であり、この10年間では、道有林の伐採量が一定量確保されたことにより事業量は安定し、平成29年度以降毎年50万㎡以上となっています。



一方で作業員の減少や高齢化に加え、業務の効率化が喫緊の課題となっていることから、令和3年度から電子輪尺機器を本格運用し、伐採木調査は複数人から単独での実施が、さらにPC上で調査データの集計や分析作業が可能となるなど、業務の大幅な効率化を図りました。

今後は、令和9年度にスタートする次期道有林基本計画の検討状況や、伐採木調査の簡易化など道の動向を注視しながら、衛星データ、ICT・IOT技術の活用などを進め、引き続き業務の効率化に取り組む考えです。

また、伐採区域の明示、伐採予定森林や路網の状況の確認といった調査の事前作業についても、道と連携を図りながら計画的に進める必要があります。

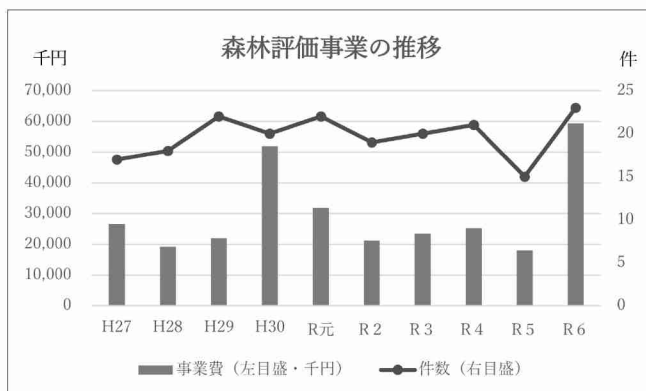
伐採木調査以外では、人工林・天然林標準地調査は大幅に減少しましたが、野ねすみ予察調査は増加傾向で推移しました。

4) 森林評価等事業

民間企業や市町村などからの委託を受けて、主に道有林内での公共事業の実施や送電線の維持・管理等で支障となる森林の評価業務、保安林関係の申請手続き・書類の作成、町有林の整備に向けた森林調査などを実施しました。

ア 森林評価

北海道新幹線の建設をはじめ、公共事業、送電線関連の業務のほか、風力発電施設の建設に係る業務も実施しています。年度別の受託業務量は変動が大きく、伐採木調査と併せて計画的に事業が実施できるよう、関係企業等の発注情報や再生可能エネルギー関連施設の整備計画などを把握し、受注の確保に努めていく考えです。



イ 保安林

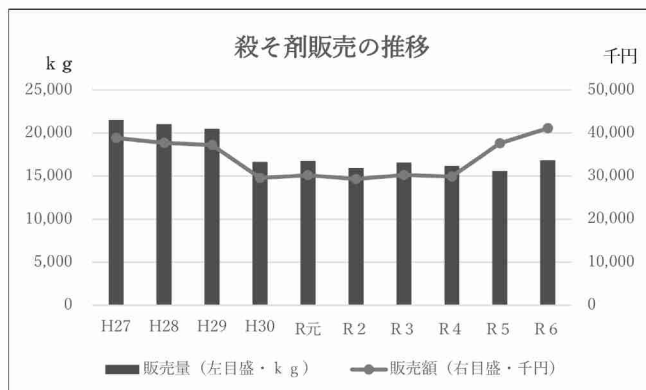
送電線の維持・管理や道路開設などに必要な保安林関係の申請書類の作成などを行いました。森林評価と併せて受託する業務もあることから、引き続き職員間の連携を強化して事業を進める必要があります。

5) 森林保全等事業

殺そ剤の製造委託と販売、林業用薬剤等の販売、街路樹や保護記念樹木の診断を実施しました。

ア 殺そ剤

平成27年度から平成29年度までは、販売量は20,000kgを上回っていましたが、製造や保管、販売の委託を開始した平成30年度以降は15,000～16,000kgで推移しています。近年は諸物価、人件費の高騰により販売価格も上昇しており、令和6年度の収入はこの10年間で初めて4,000万円を超えた一方で、製造委託費の大幅な増加や委託先の製造機器の老朽化などが課題となっています。今後は、道の支援や協力の下、安定的な生産と収益性の向上に向けて、関係機関・企業と一体となって取り組むことが必要です。



イ 林業用薬剤等販売

コニファーなどの林業用薬剤、野ねすみ予察調査用器具などを販売しました。販売収入は平成27年度から令和2年度まで減少した後、令和3年度以降は増加に転じましたが、令和6年度は前年度比60%の大幅な減少となりました。

ウ 森林樹木診断

札幌市等から街路樹、道から記念保護樹木の調査委託を受け、樹木診断業務を行ってきましたが、中でも札幌市の委託業務が殆どを占めており、業務体制に応じた事業量の確保に努めているところです。こうした中で、全国的に街路樹の高齢化が進み、倒木による事故などが発生していることから、札幌市においても樹木診断業務の増加が見込まれています。引き続き樹木医会や関係企業と密接に連携しながら、効率的に業務を推進し、事業量の確保に取り組む考えです。

6) 道民の森管理事業

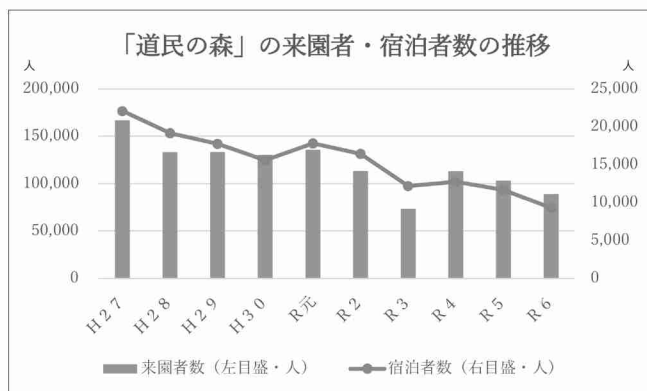
道の指定管理を受け、道民の森の管理業務を実施しました。平成27年度は指定管理の第3期（4年間：平成26年度～平成29年度）の2年目にあたり、第4期（4年間：平成30年度～令和3年度）、第5期（5年間：令和4年度～令和8年度）と継続して管理業務を実施しています。

ア 入園者数

この10年間では、入園者数は平成27年度の166,730人が最も多く、令和2年度までは10万人以上でしたが、令和3年度はコロナ禍により73,412人、平成27年度比で44%まで落ち込みました。令和4年度、5年度は10万人を超えたものの、令和6年度は89,099人と再び10万人を下回り、道が平成27年度に策定した「道民の森活用方針」（以下「活用方針」）で掲げる利用者数の目標20万人（平成37年度＝令和7年度）の達成はほぼ困難な状況となっています。

イ 宿泊施設利用者数

宿泊施設利用者数も平成27年度以降減少傾向で推移しています。特に令和3年度はコロナ禍の影響で12,186人となり、平成27年度対比で55%と大きく落ち込みました。その後も減少が続き、令和6年度は1万人を下回りました。



ウ 年度別収支

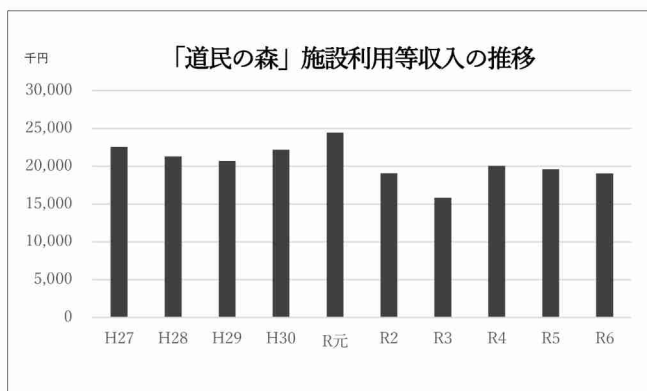
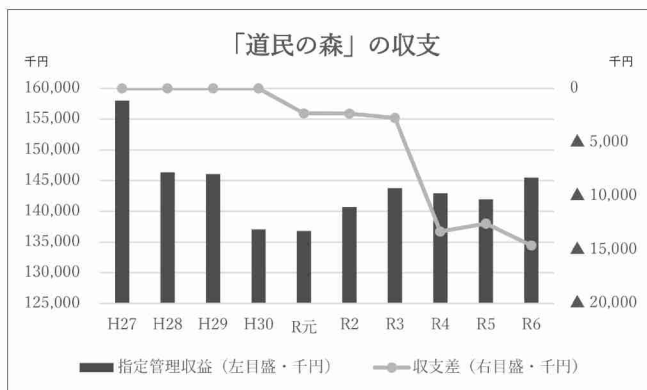
公社が一般財団法人に移行した平成24年度から平成27年度までは、道からの指定管理収益と施設利用料等の収入合計は1億7,100万円～1億7,800万円と安定していましたが、活用方針に基づき老朽化した屋外遊具の廃止、施設の長寿命化対策などにより道の負担金が平成28年度、平成29年度の2年間合計で2,300万円減額され、第4期の指定管理がスタートした平成30年度は平成27年度から2,000万円の減額となりました。

令和2年度以降は、コロナ禍による利用者の激減や諸物価の高騰に対応するため、補正予算が措置されたものの、指定管理収益は平成27年以前の水準には戻らず、さらに来園者数は伸び悩み、施設利用などの収入は毎年度計画を大きく下回りました。

支出については、開園から35年が経過した建物、設備の老朽化に加え、諸物価の高騰などにより修繕や維持管理費用が支出の大部分を占めています。収入が限られている中で、道民の森の魅力

的な発信や、Wi-Fi やトイレ、冷房機器の導入など利用者のニーズに沿った取組が実施できない状況が続いています。

こうしたことから、道民の森管理事業は令和元年度以降赤字となっており、特に令和4年度からは赤字額が1,000万円を超え、経営への影響が懸念される事態となっています。



エ 今後の対応

道民の森の現状や課題を踏まえ、道では活用方針の見直し作業を進めています。公社としては施設の老朽化への抜本的な対応や、SNSを活用した魅力発信、費用対効果を踏まえた管理エリアのあり方などについて、活用方針に具体的かつ効果的な対策が盛り込まれ、より多くの方が道民の森を利用し、持続的な管理・運営が可能となる対策が実行されるよう、引き続き道と連携・協力して取り組む考えです。